

令和4年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判断基準	判定基準	備考
(1) 授業改善と 専門性の向 上	① <授業改善> 目標評価及び教科の見方・ 考え方の視点から授業改善を 行う。各教科と各教科等を合 わせた指導との関連を図る。	研究推 進課 全学部	新学習指導要領で目標評価を意 識し、主体的・対話的で深い学 びを工夫した。教科の見方・考え 方を働かせた深く学ぶための手立 てや問い、ICT活用に課題がある。	【努力指標】 主体的・対話的で深い 学びに繋がる展開や働き かけを工夫し、教科の見 方・考え方を意識し授業 改善している。	担当授業等で主体的・対話的で 深い学びの視点から、学習内容や 指導方法の工夫改善に取り組んだ 職員の割合	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 職員アン ケート
	② <専門性の向上> 児童生徒の特性や能力に応 じ、確かな学びに繋がる授業 を展開する。主な教育内容に ついて明示する。	教務課	個別の目標等を明確にし、保護 者等に説明は行っているが、学校 全体の教育課程上の履修内容や年 間計画は明示していない。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方 々が、本校の授業内容に 満足している。	授業参観等で授業内容に満足し ている保護者や関係機関職員の割 合	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	参観者ア ンケート
	③ <ICTの活用> 児童生徒がICTを活用し 主体的に取り組む授業を実践 する。	情報支 援課	児童生徒1人1台タブレット端末 が導入される。指導目標に対して 効果的に活用する必要がある。	【努力指標】 児童生徒自身がICT を活用し主体的に学ん でいる。	児童生徒自身がICT機器を活 用している割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 職員アン ケート
(2) キャリア教 育の推進	① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログ ラム(改訂版)を活用し、自 己選択や自己決定に関する実 践や家庭との連携を図る。	進路支 援課 各担任	自立と社会参加・貢献や自己選 択・自己決定を意識し、キャリア 発達を促すために、教員が適切に 説明し、家庭と連携し共に取組 を継続する必要がある。	【努力指標】 保護者がキャリア教育 の取組内容を意識し、家 庭でも取り組んでいる。	キャリア教育の具体的な取組内 容を意識し、家庭等でも取り組ん でいる保護者の割合	A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 保護者ア ンケート
	② <進路支援の充実> 保護者も交えた進路研修会 を実施し、キャリア教育や進 路支援の充実を図る。	進路支 援課	進路に関する教職員の意識は冊 子や映像の活用、研修会を通して 高まった。保護者は施設見学を しているが、講演会は近年行われ ていない。	【努力指標】 職員及び保護者のキャ リア教育や進路に関する 意識に向上が見られる。	進路支援研修会を通してキャリ ア教育や進路に関する意識の向上 が見られる保護者・職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 保護者・ 職員アン ケート
(3) 安心・安全 な学校づく り	① <健康・安全・防災に関する 教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する 授業や行事等において実践を 行う。	指導課 保健課 各部	健康・安全・防災に関する児童 生徒への指導は授業や避難訓練、 防災教育で実施した。自分で考 えて行動できるよう指導内容を更 に充実させる必要がある。	【努力指標】 授業や行事等で健康・ 安全・防災に関する指導 を積極的に行い、工夫し ている。	健康や感染症、食育等に対応し た指導及び学校安全計画に即した 指導を行っている職員の割合	A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 に職員ア ンケート
	② <危機管理意識の向上> マニュアルやヒヤリハット 等を参考に、日常の安全管理 に留意した行動をとり、事故 防止や健康管理を行う。	指導課	近年、重大な事故はないが、軽 微な事故は発生している。安心・ 安全な学校づくりを推進する必 要がある。	【努力指標】 マニュアルやヒヤリハ ット、事故報告等を参考 に日常の安全管理に留意 した行動をとっている。	マニュアルやヒヤリハット、事 故報告等を参考に日常の安全管理 に留意した行動をとっている職員 の割合	A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 に職員ア ンケート
(4) 業務の効率 化の工夫	① <業務の効率化と環境改善> タブレット端末を活用し、 会議等のペーパーレス化や 短時間化、データ管理、情報 共有等の業務の効率化と環境 改善を図る。	教頭	時間外勤務は減少傾向にある。 各課業務の平準化を図り予定を明 確化し意識は高まった。職員会議 や情報支援課会はペーパーレス を実施しているが、他の会議は印刷 紙面が多い。	【努力指標】 会議等でタブレット端 末を使用し、ペーパーレ ス化や短時間化を図り、 データ管理や情報共有を 行っている。	課会や部会、各種委員会、打合 せ等でペーパーレス化や短時間化 を工夫し、データ管理や情報共有 を行っている職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・2月 に職員ア ンケート

